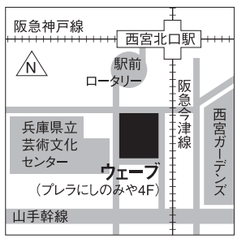
編集後記 「どんな服を着るか」その人の好みや哲学の表れるとても深い問い(えじゅ)／服についてここまで考えたことがなかったので、シンドかったけど、楽しかったし勉強にもなりました(Chikikuri)／初めての記事作りにドキドキハラハラ! 想いを文字にすることの大変さと喜びをかみしめ中(樹)／ファッションについてはじめての勉強でした(T)／只今訓練校通学中、日々新しい発見あり。若返り効果あるかな?(エウレイカ)

■ネットワーク委員:西宮市男女共同参画センター ウェーブを拠点に市民参画の事業を推進することを目的に公募で選ばれた市民(任期2年)。現在の第8期委員は情報誌の編集・発行、講座企画、運営をしている。■ウェーブ(WAVE)の意味:「男女がともに行動し、活気に満ちた平等社会をめざす」ことを意味する言葉(With/Act/Vitality/Equality)の頭文字と、男女共同参画社会の実現に向けて大きな波(うねり)をつくっていこう、という思いがこめられています。

ウェーブは、男女共同参画社会の実現をめざす施設です。性別、年齢、国籍にかかわらず、ご利用いただけます。
開館時間　1月4日～12月28日
　　9:00～22:00
受付時間　月～土曜日(年末年始、休日除く)9:00～17:15



WAVE PRESS Vol.18
●発行日　2016年3月31日
●編集・発行
西宮市男女共同参画センター　ウェーブネットワーク委員会
〒663-8204　西宮市高松町4番8号 プレラにしのみや4階
Tel. 0798-64-9495　Fax. 0798-64-9496
●http://www.nishi.or.jp/navi/In_0009600000.html

市民がつくる、市民のための、男女共同参画社会をめざす情報誌「ウェーブ プレス」
WAVE PRESS
2016 MARCH Vol.18

服って何もの?
着るってどういうこと?

**たかが外見、されど外見、という見方もあるわけで…。
服は自分を解き放つことができる自己主張であり、
同時に社会的要因や環境、時代によって自らを縛ることもあります。**

ファッションは「生き様」「自己表現」である

「服」はただ着るだけ、まとうだけのものではないのかもしれない。ファッションについて考えることは、生存を勝ち取るための戦いだ!

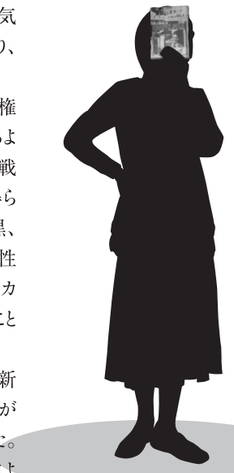
カメレオン

身に着けるもので不思議なくらい人の気分は変わる。気分が高揚したり沈んだり、負のオーラを跳ね返す力もある。

私は物心ついたときから、親族から人権を剥奪され、支配されてきた。息の詰まるような逃げ場のない日々の中で、毎日が戦争。心休まる穏やかな瞬間はひとときも得られなかった。故に、服やメイクで武装。黒、青、紫といった激しい色彩を好んだ。慢性的な性的被害から身を守るため、ミニスカートをはくのが恐ろしく今でもほとんどはくことはない。

そして去年生まれ育った土地を捨て、新しい人生を再スタートさせた。少しずつだが回復の基盤ともいえる環境が整い始めた。にしても自身の置かれている環境、立場によって、カメレオンのように姿を変えていかなければならない社会とは、何と忙しく切ないのだろうか。

ファッションとは、その人の生き様を炙り出し、また隠れ蓑にもなるのだ。(樹)



下着

20年間夫の上司夫人のおさがりを着ていました。服にまつわる思い出エピソードをたっぷり聞かされ、カバンや使いかけの口紅や靴も渡されました。立場上断れませんでした。自前は下着と自分のカラダのみ。

「着てくれてるやん」とご満悦な上司夫人に、「お金助かるし、よかったやん」と無関心な夫。いつも時代遅れの黒紺グレー服とGパン、ひっつめ髪にノーメークでした。私のことはいつも勝手に決められ、意見も言えませんでした。

その環境を離れて、初めてオレンジ色のスカートをはいたときの開放感! 今はリサイクルショップでお財布に優しいお洒落レッスンを楽しんでいます。春にはミニスカートに挑戦だー(笑)。(エウレイカ)

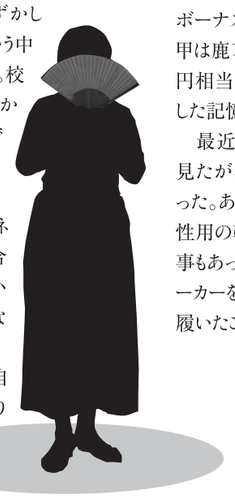
メガネ

メガネデビューは中学生のころです。最初に心惹かれたのは、サイドに小さなハートの飾りがついていて、ささやかに自己主張するメガネでした。

そのメガネは、目立つのは気恥ずかしい、だけど小さく自分を出したい、という中学生の私自身の姿だった気がします。校則を守る不自由な中にあっても、だれからも規制されることなく、自分の意思でメガネは選ぶことができる。メガネは私を自由にしてくれました。

その後、進学や就職の節目にメガネ屋さんに行ってその時々の気持ちに合うメガネを新調してきました。現在はハンドメイドの一点もの。レンズを換えながらもう10年以上使っています。

今の気持ちですか? 自分らしく、自分を大切に、でしょうか。あっ、やっぱりメガネは私そのものですねぇ。(えじゆ)

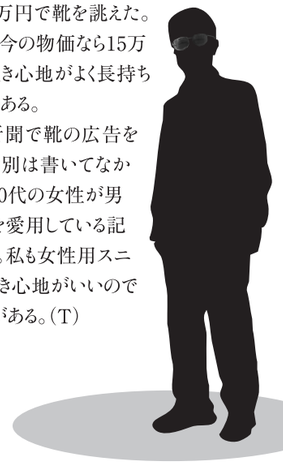


靴

年寄りが町にあふれている。年寄り向けの服装は機能性が大事だが、見た目にいい服装も大切でしょう。服だけでなく靴や帽子なども選択の幅が広がると恰好悪い歩き方もいくらかマシに見えるのでは。

靴といえば、かつて旅館ではお客の靴を見て懐具合を判断していたとか。それが頭にあったのか、約50年前の入社早々、夏のボーナス2万円で靴を誂えた。甲は鹿革、今の物価なら15万円相当。履き心地がよく長持ちした記憶がある。

最近、新聞で靴の広告を見たが、性別は書いてなかった。ある30代の女性が男性用の靴を愛用している記事もあった。私も女性用スニーカーを履き心地がいいので履いたことがある。(T)



ジェルネイル

服によって自分の気持ちは左右されるものだと思います。でも私は車いすのため、そうは言っていられないときもあります。例えば、袖ぐりがゆったりしたドルマンスリーブ、肩先や袖口がふくらんだパフスリーブ、長いコートなんかは着られませんし、靴のヒールは4cmまでなんです。

あとネイルも楽しめません。長持ちするっていうジェルネイルもあっっ!!っという間に剥げていくんです。自分のからだを支えたり、車いすを漕がなければイケナイとなると、そりゃネイルも剥げるわって思いますが…。

イイこともあるんですよ! ウエストラインを曖昧に見せること、後姿に気をつけなくてもイイ。姿勢には気をつけてますけどね。服を着こなす上では大切ですから。(Chikikuri)

佐倉さん ファッションインタビュー

佐倉智美
(ジェンダー&セクシュアリティ ライター)

幼いころより自分の性別「男」に違和感を覚える。1997年「性同一性障害」を確信し、社会的・文化的性別を「女」へ転換。著書に『性同一性障害の社会学』、『明るいトランスジェンダー生活』『女子高生になれなかった少年』など。甲南大学非常勤講師、NPO法人「SEAN」理事。

服選びによって性別を自覚したともいえます

女性枠、男性枠の服がある中で、私の場合は「自分を好きでいられる装いが女性枠の服」でした。服選びは個性の表現であると同時に帰属意識の表明でもありますから、女性が着る服を着ること自体に意味があります。

男性から女性に移行しつつあったときに女性ものの服を着て、これが本当にしたい服装だと実感できたときの高揚感を考えると、服装は自己実現の大きな柱です。社会とのかかわり合いの中で女性枠の服に対する意味づけを獲得したいという願望も含まれています。

中高生の授業で話をすると「もっとオネエっぽい人が来ると思った」という感想がたまにあります。トランスジェンダー*らしい格好を期待される圧力を感じます。その予想を受け止めつつ裏切る服装というのは難しいですね。↙

オレンジやピンクの明るい華やかな色で表現する自己像があります

↘ 服装と気持ちの相互作用を軽視してはいけない

男性会社員として責任ある地位にいる顔をしなければならないことがしんどかった。責任ある地位が嫌なのではなく、男性会社員としてふさわしい、上司から期待される“らしさ”に基づいた服装しかできず、気持ちが沈む状況がありました。男性としての生活が煮詰まり会社を辞めるにあたって不安も広がったけれど、今日からネクタイをしなくてもいいと思うと、すごく開放感がありました。

中学校に入学したときのことを振り返ると、詰め襟の学生服は自分らしくないという思いがあり、めでたい気分も三割引でした。不満足感を象徴するものとして制服は大きかったと思います。

女装ではじめて外出したとき、明らかに男性とわかるので周りから変な視線がたくさん飛んできましたが、注目を集めていることに新しい扉が開けた、という思いがありました。印象に残っている出来事です。

一般的な女性役割を無批判に受け入れた服選びではつまらない

女性になって服装を変えると内面的にも顔つきも変わりました。が、ボディはなかなか難しいです。最新の身長は166cm位ですが、164cmと言っています。男性だったころは170cmと言っていました。女性と男性ではサバを読む方向が反対、これがジェンダーですね。

着たい服を着るわけですが、「何故それを着たいのか」と突き詰めると、人間は社会的な存在である以上、人にどう見られているかということとは切り離せないのは当然です。しかし、女性の服選びが男性からのモテを意識し、性的に評価されたいからという発想は誤解だと言っておく必要はあるでしょうね。

私は性別を女性に変えたとき、服の選び方がわからず試行錯誤しました。水着も浴衣も一通り着て、現在は楽にできる格好と、ちょっと頑張ってオシャレな格好を、おりまぜています。自分らしく、かつ50代ならこんな装いだろうという枠組みを打ち壊す実験をしていくのがこれからの課題です。

※**トランスジェンダー**:「トランス」はラテン語で「乗り越える」「逆側に行く」、「ジェンダー」は英語で「性」の意味。性自認が身体的性別と対応しない状態を意味する。

《服にまつわる用語解説》

■「服」の熟語
衣服、服装、服飾／礼服、喪服、制服／服務、服従、屈服、征服、服役／服用、服薬、服毒

■服う (まつろう)
服従する、従いつく
「自分を放棄する。相手の意のままになる。自分の考えをもたない、たとえもっていても出さない」

■襟を正す
①姿勢、服装の乱れを整えきちんとする
②心を引き締め真面目な態度になる

■襟を開く
胸中を隠さず、すっかり打ち明ける

■袖打ち合わす
袖をかき合わせて相手に敬意を表する

■袖にする
おろそかにする、ないがしろにする、すげなくする

■脱帽
その相手にはとてもかなわないとして敬意を表する

■シャッポを脱ぐ、兜を脱ぐ
降参する

■ボタンの掛け違い
後になって矛盾や不都合を生ずるような、最初のほうで犯した間違い

※参考資料 ： 源淳子「男尊女卑」考-近代日本における「男尊女卑」について-『人権問題研究室紀要』(関西大学第七十号(2015年9月)／広辞苑第六版